



仁井田堰400年の歴史を見続けてきた四ツ小屋のケヤキの大木(白山八幡神社)。そ
の巨木の真下を仁井田堰がゆったりと流れている。

3



元和2年(1616)、佐竹家の家老梅津憲忠は、藩命を受けて、仁井田原野の新田開発
に着手。その成功を祈って仁井田神明社を建立。

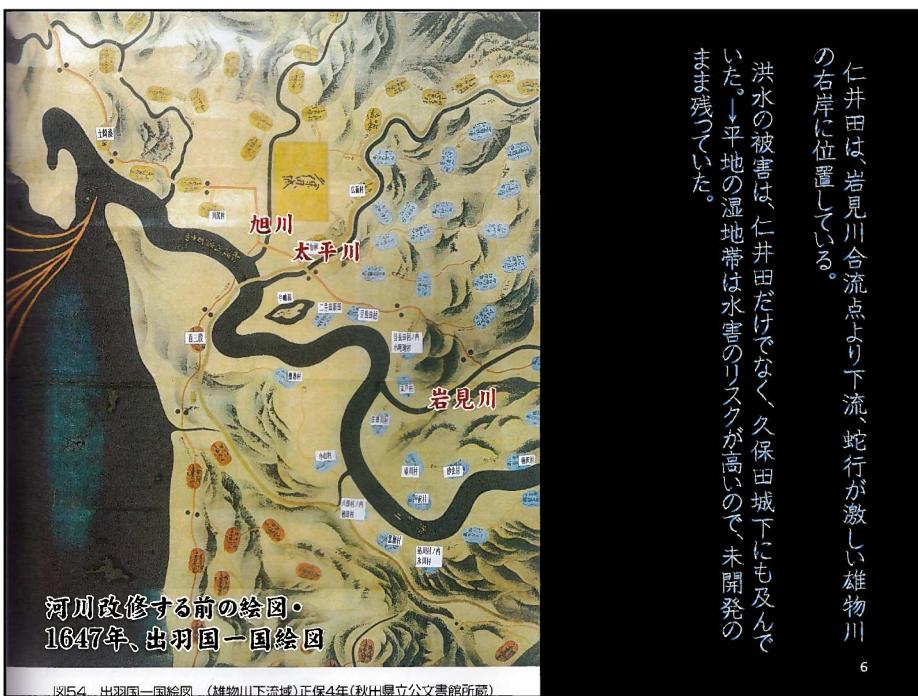
4



仁井田神明社正面の彫刻は、原野を開墾する様子が描かれている。「仁井田」という地名は、開墾でできた村=「新田(ニエタ)」、その後「仁井田」に書き改められた。

藩の一大プロジェクトとしてスタートしたが、難工事が続き、完成まで梅津家四代、80年もの歳月を費やした。その理由は何なのか。

5



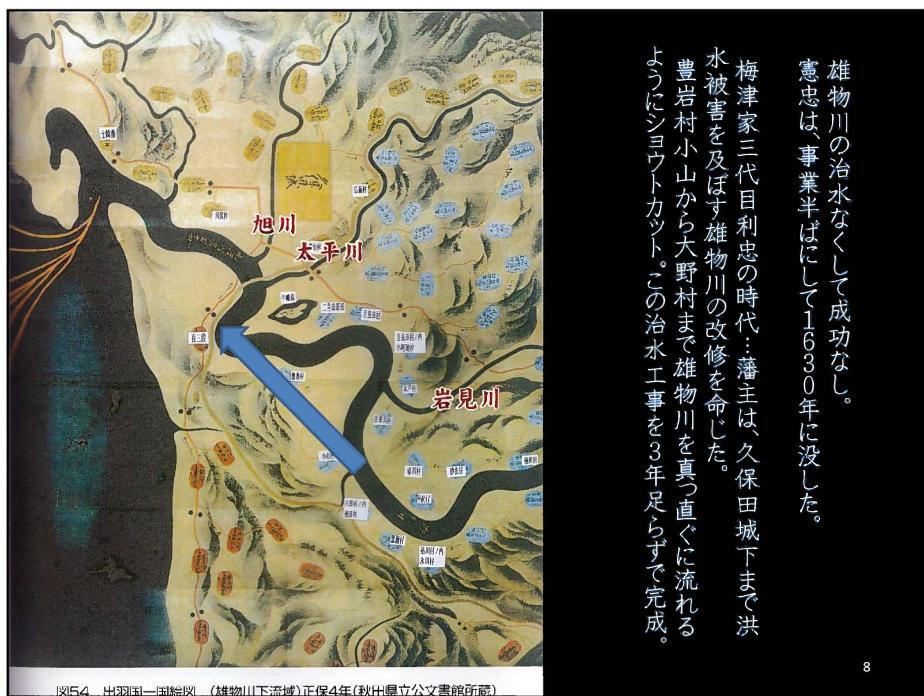
仁井田は、岩見川合流点より下流、蛇行が激しい雄物川の右岸に位置している。

洪水の被害は、仁井田だけでなく、久保田城下にも及んでいた。↓平地の湿地帯は水害のリスクが高いので、未開発のまま残っていた。

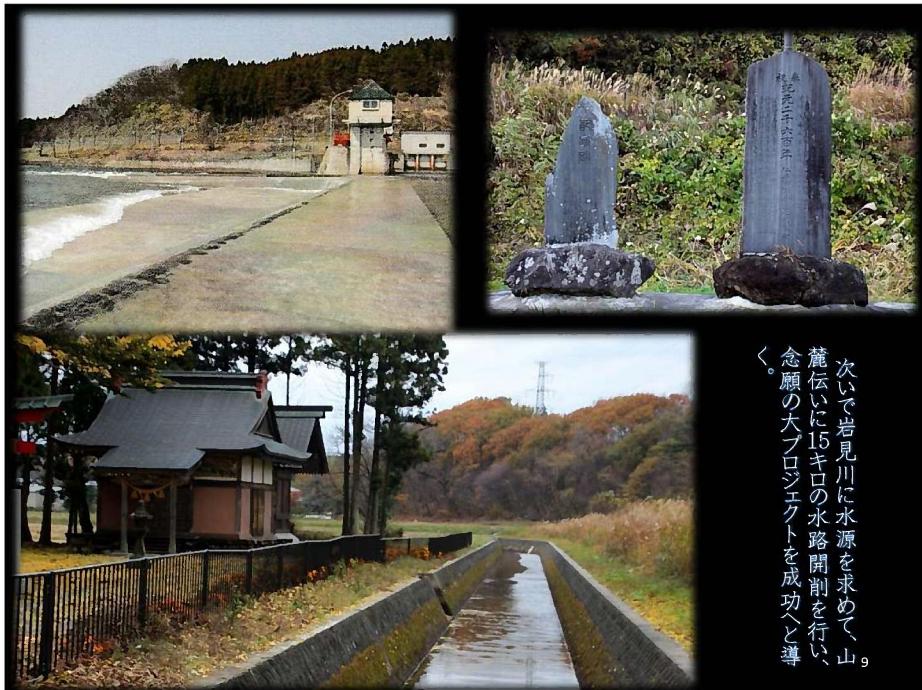
6

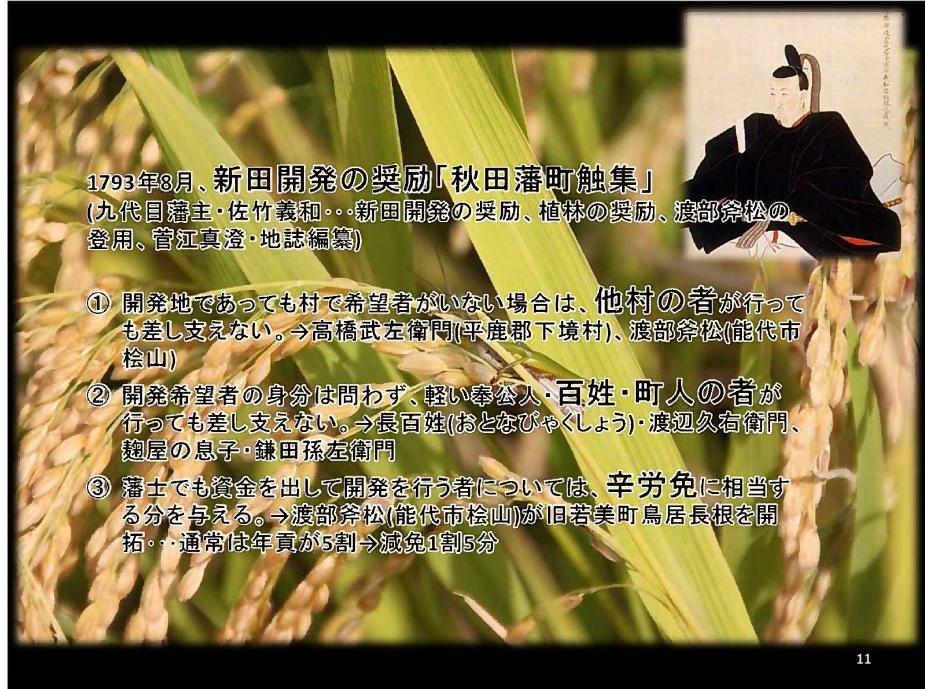


7

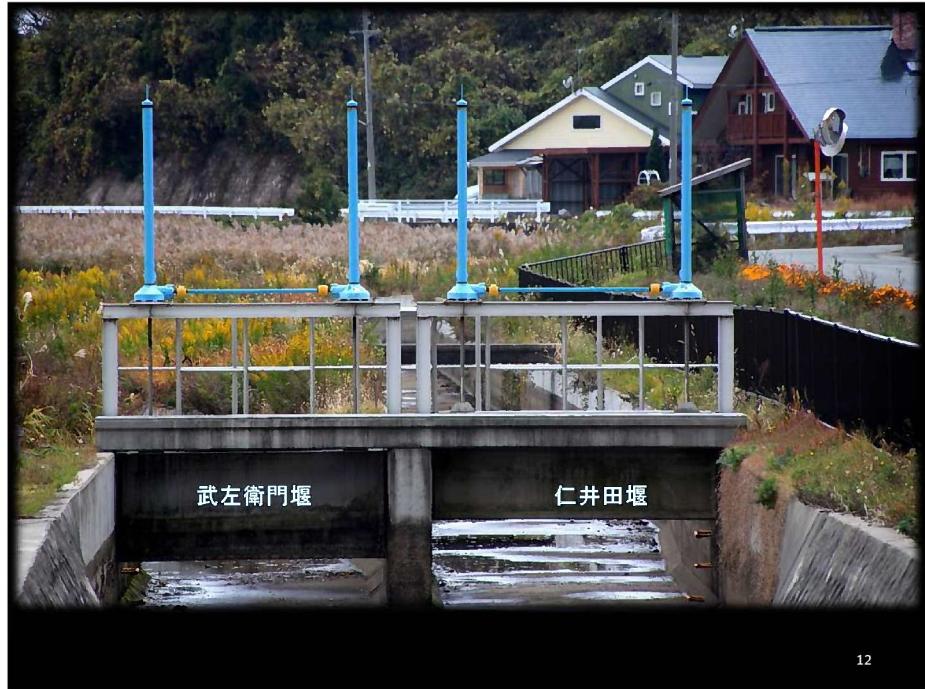


8





11



12



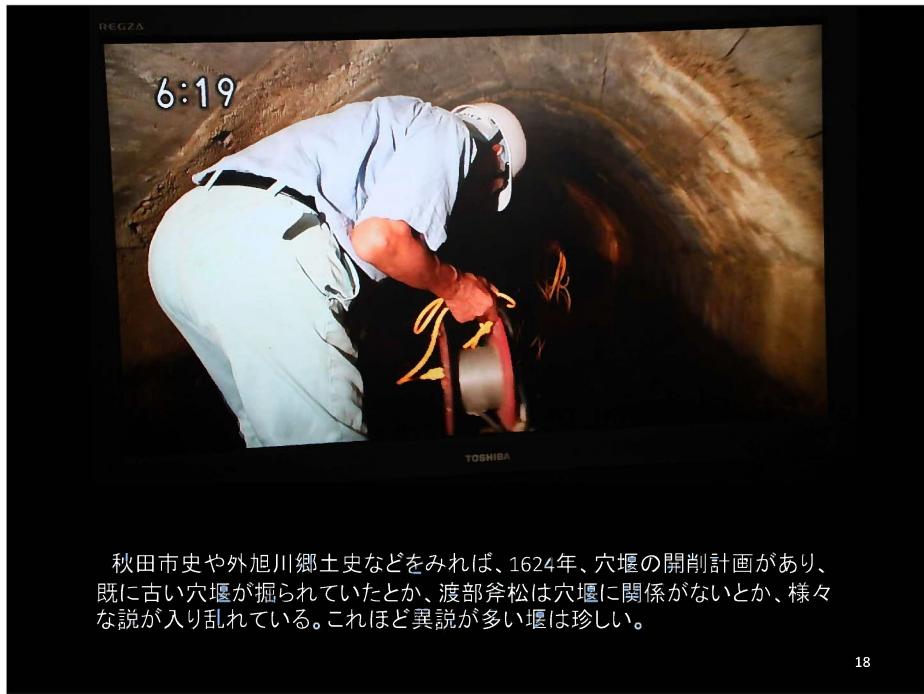




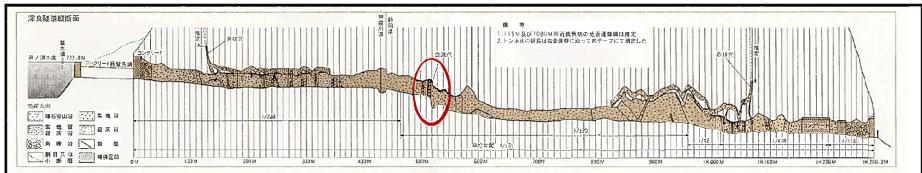
久保田城に近い平地、神田は寺内の古四王神社の神の田→仁井田堰と同じく、1600年代にかなり開拓されていたであろう。

受益面積 現在321.3ha→明治21年 630ha

17



18



日本の代表的な古い隧道は、箱根用水の隧道1280m、幅2m。完成したのは1670年のことである。ただし、1mほどの誤差あり、技術記録はゼロ…この掘削技術が民間、他藩に広まることを恐れたからと言われる。



岩手県農業農村整備紙芝居より

- ・両サイドから掘る→高度な測量技術が必要。
- ・穴の直径は背丈ほどしかない→作業スペースが狭小。熟練した鉱山の最新技術が必要。(人海戦術では不可能)
- ・硬い岩盤があればよけながら掘り進む→進路を修正必要
- ・酸欠、崩落、湧水に悩まされる。
- ・犠牲者も少なからず。

19

秋田で最も古い隧道(100m以上)は、能代市の岩堰用水路の隧道200mで1631年に完成。だから、1600年代に古い穴堰が掘られていた可能性は高いと思われる。(写真:北羽新報)

「記事の日本初の穴門」は間違い…日本最古の隧道は、岩手県胆沢平野の穴山堰。1500年～1550年前後、全長18km、うち穴堰3km。

日本初の穴門の不思議

穴門用水(4)

穴門の曲がりNo.6からNo.5を見る

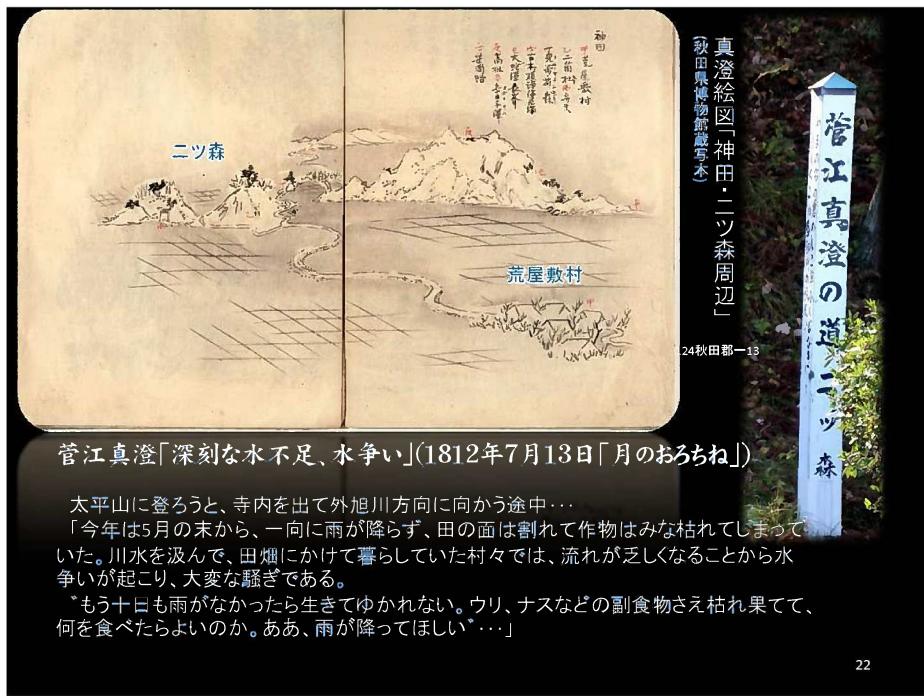
8日の着…

歴史

く4>

ネルのことで、里太郎では穴門ともいいます。日本七名園の一つ、金沢市兼六園には、環水している穴門用水

20





穴堰約200m…用水不足と水争いを解消するために、名主に次ぐ地位の長百姓・渡辺久右衛門(くえもん)さんが、藩に願い出て開削。

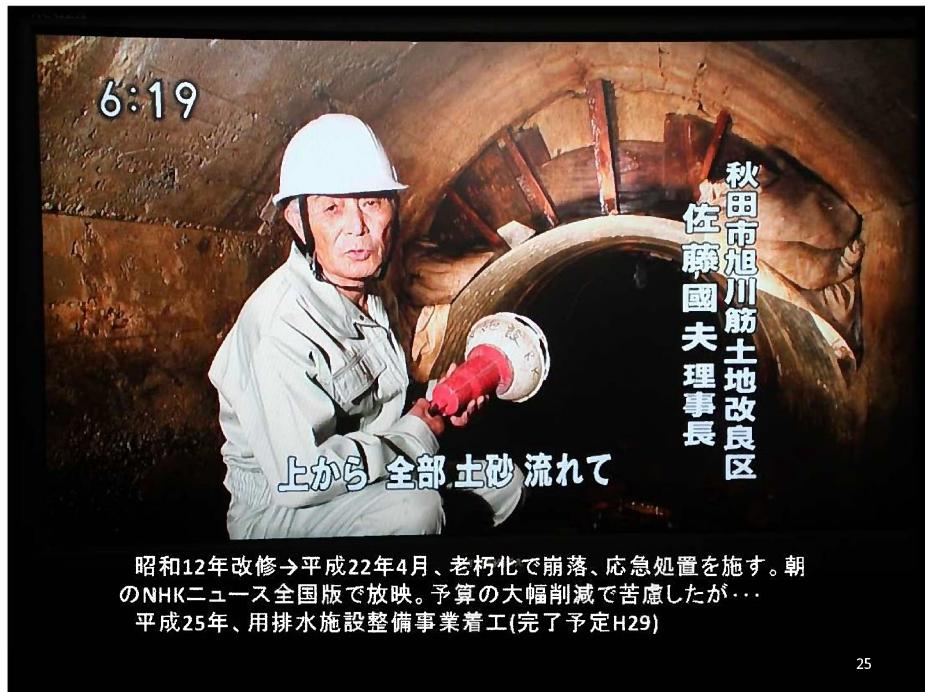
23



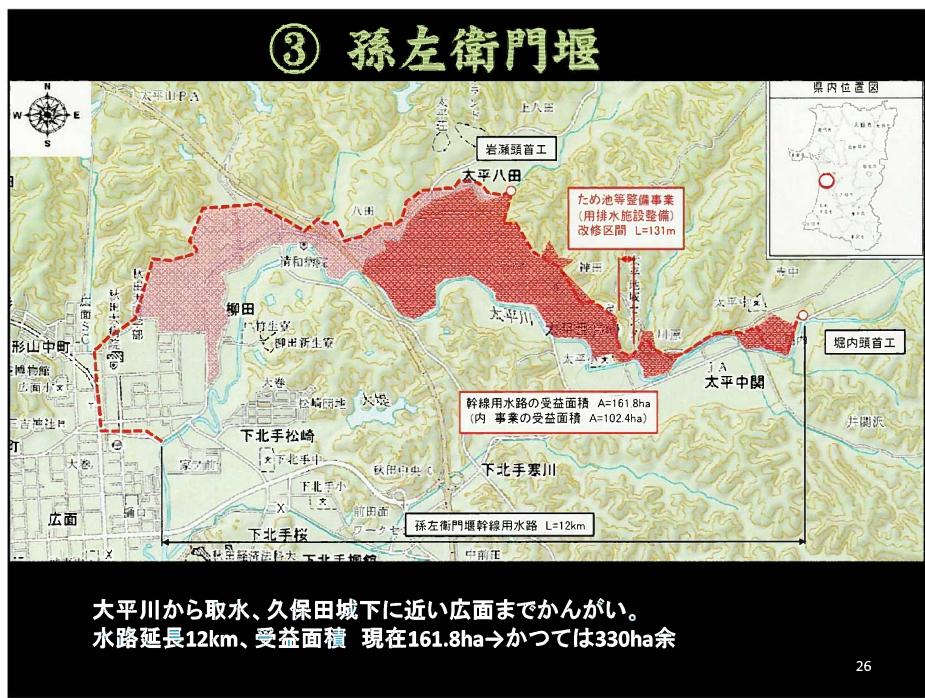
「秋田市史 近世」には、渡辺久右衛門からバトンタッチされた斧松が完成させたとしている。しかし、「外旭川郷土史」によると、久右衛門さんが文化文政年間(1804~1829)に完成させ、「一代名字御免」を許されたとある。

外旭川一帯は元々藩のプロジェクトで開発→穴堰開削は最も難しい技術。当時秋田藩一の開拓者・渡部斧松の指導等があったのではないか?

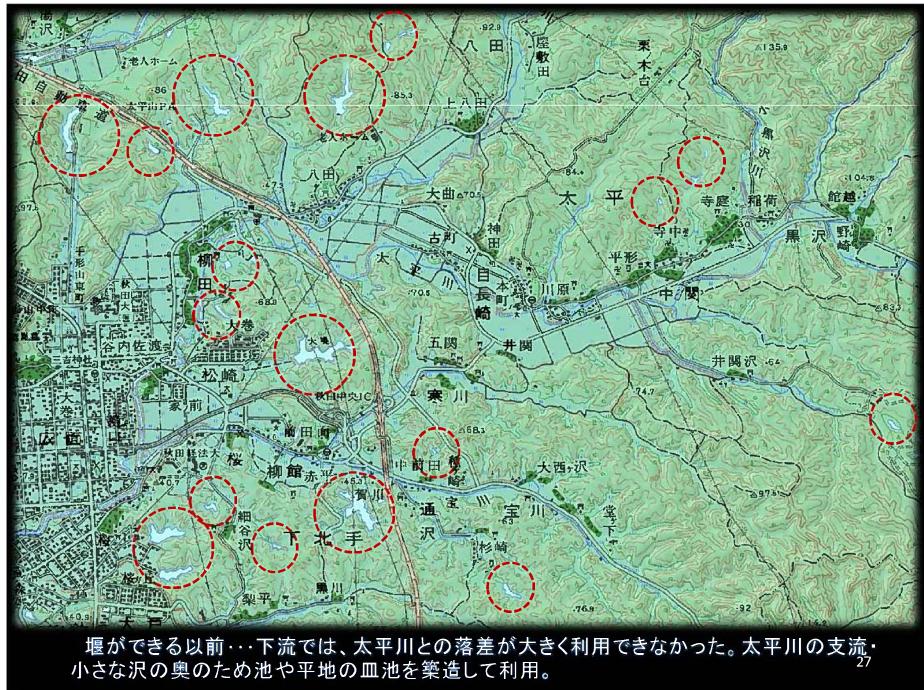
24



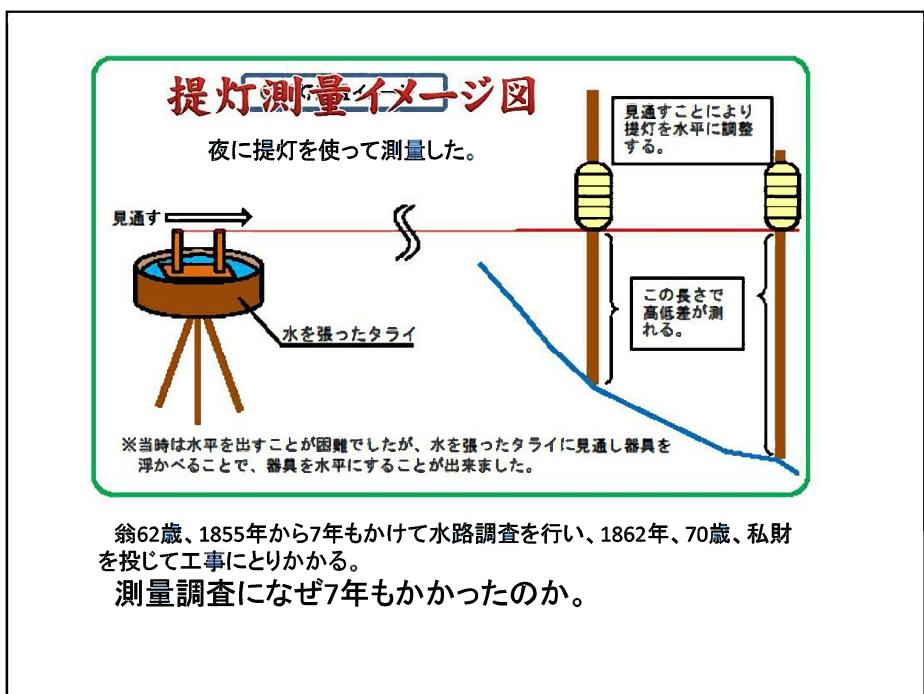
25



26









宅地が連なる山際を堰が走っている。下流のために水路敷地を提供・補償、家屋移転など、合意形成が困難を極めたであろう。

33



山際を走るルートは地形が複雑→隧道は大小8力所、延長550mに及ぶ。川を横断する掛橋など、技術的に難しい。(→渡部斧松の弟子たちから測量及び技術的指導を受けたのではないか)

34



